

# 状況を確認せず機械を駆動されて大ケガ

## スイッチの位置から見えなかった



《災害のあらまし》製品の包装工場で、包装ライン（長さ10m）の一部の調子が悪かったため、担当者が休憩時間中に点検・調整をしていたところ、休憩が終わって他の作業者が包装ラインの起動スイッチを入れたため、修理中だった作業者が右手を機械に挟まれて休業3カ月の重傷を負ったものです。

### 《災害の主な原因》

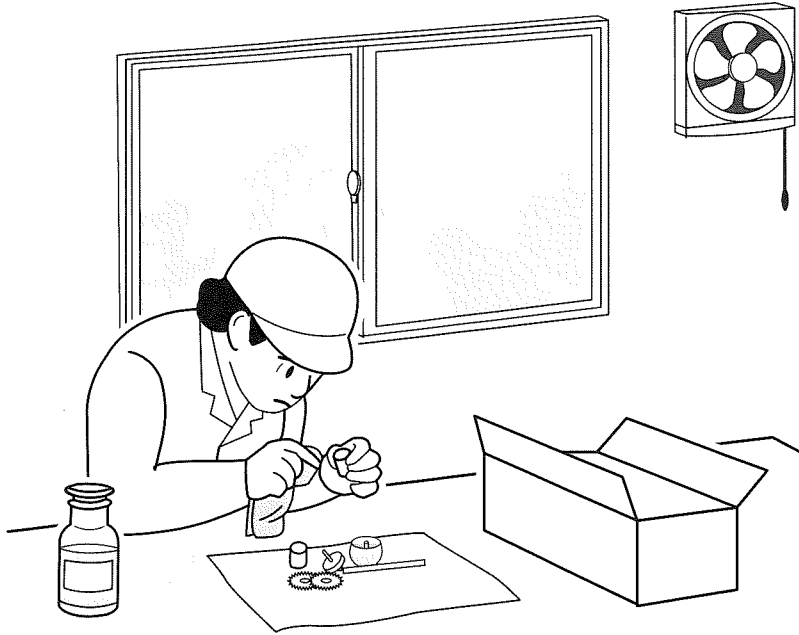
- ①被災者が起動スイッチの操作位置から見えなかったこと。
- ②スイッチを入れた作業者は、被災者が休憩時間に点検・整備を行っていたことを想定しなかったこと。
- ③被災者は、メンバーが休憩中であり修理もすぐ終わるからと、スイッチに修理中の表示や施錠等の定められた措置を実施しなかったこと、など。

### 《同種災害の防止対策例》

- ①短時間の修理などであっても、このような事故を予測してスイッチに表示や施錠を行う。
- ②包装のライン等を起動するときは、周囲の状況を「指差し呼称」等で確認して起動操作を行う。
- ③死角のある包装ライン等には、起動の際に警報や警告灯で注意を喚起する設備を設ける。
- ④チームのリーダーは、休憩に入るときや作業を再開するときなどでは、メンバーの動静に注意し安全を確認する、など。

# ベンジンで汚れ取り作業 有機溶剤中毒

## だれも中毒を想定していなかった



《災害のあらまし》金属雑貨の修理職場で、金属部品の汚れを家庭用のベンジンで拭き取る工程の作業に従事していた女性パート作業者が、この作業に従事して2カ月頃からめまい、両下肢の筋肉痛等の「多発性神経炎」の症状により、有機溶剤中毒と診断されて1カ月間の休業・通院加療の災害となりました。

### 《災害の主な原因》

①このベンジンには、有害性の高いノルマルヘキサン(第2種有機溶剤)が多量に含まれていたこと。

②金属部品の拭き取り作業は、顔を部品に近づけて行うため、高濃度の有機溶剤蒸気を吸入しやすかったこと。

③排気装置が有効に設置されていなかったこと。

④この作業は危険・有害作業との認識がなく、法令の有機溶剤作業の管理も教育も実施されていなかったこと、など。

### 《同種災害の防止対策例》

①洗浄液はMSDS(製品安全データ)等でチェックし、有害性の低い物を使用する。

②「化学物質取扱いのリスクアセスメント」を実施し、局所排気装置や、作業方法を改善する。

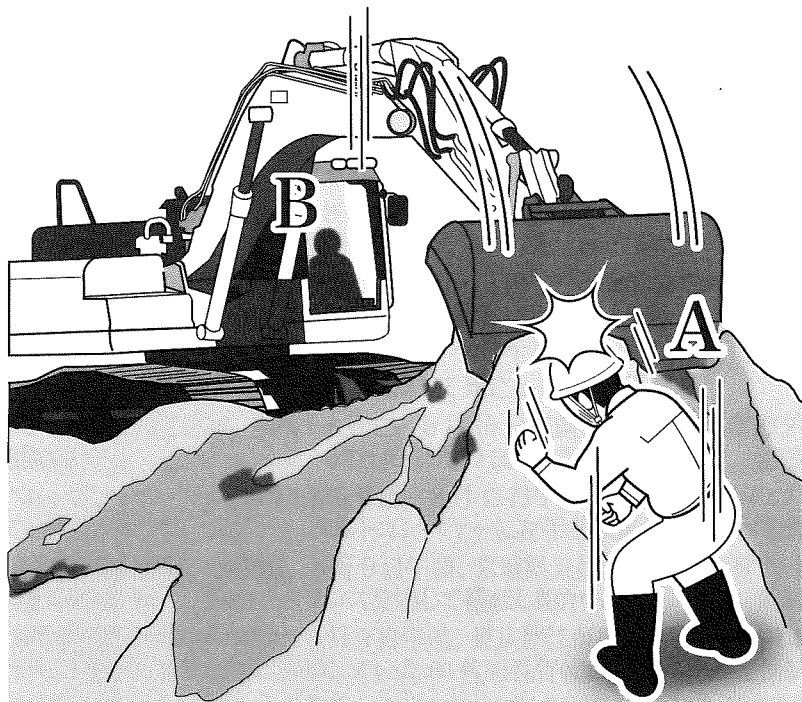
③当該作業は有機溶剤中毒予防規則に則って管理する。

④作業者にマスク等、保護具の使用方法や洗浄剤の安全な取扱い方法等を教育する、など。

事故・災害事例から

# ドラグ・ショベルのバケットに激突されて死亡

## 土砂の山で互いに相手が見えなかった



《災害のあらまし》 工事現場で、下請け工事業者の作業員(A)が、山積みされた土砂の陰で不要物を取り除いていた際、土砂を移動するため別の下請け業者の作業員(B)が、反対側からドラグ・ショベルで土砂を移動しようとして、土砂の山陰の作業者に気付かず、バケットが被災者の頭部に激突し、死亡したものです。

### 《災害の主な原因》

- ① AにもBにも、相手の存在・作業状態が見えなかったこと。
- ② 危険が想定される作業にもかかわらず、見張り人等を配置しなかったこと。
- ③ 同一作業場で下請け同士が混在して作業を行うにもかかわらず、事前に元請けや下請け、業者間で、作業の具体的な連絡・調整等が行われていなかったこと、など。

### 《同種災害の防止対策例》

- ① 現場での混在作業や共同作業では、常時、他の作業者の存在や状態を意識して行動するよう習慣化する。
- ② 物陰や死角で危険が想定される作業では、見張人の配置やバリケード等を設置する。
- ③ 同一作業場で混在して作業が行われる作業では、元方事業者は関係請負人との間、及び関係請負人相互間における連絡及び調整を行う(労働安全衛生規則第636条)
- ④ RA(リスクアセスメント)やKY(危険予知)活動を活性化する、など。

事故・災害事例から

# 労働災害速報

(最近の新聞等から)

- ・重機で整地作業中に土砂崩れ、作業員が死亡。8月26日午前、鹿児島県鹿児島市で、バックホーで整地作業中、斜面に積んでいた土砂が崩れ、バックホーを操作して作業を行っていた60代男性が埋もれて死亡。(南日本新聞)
- ・工事現場で作業員2人がシンナー臭で病院搬送。8月25日夜、東京都新宿区のビル工事現場で、地下の飲食店の工事現場で作業をしていた40代男性作業員2人がシンナー臭で意識朦朧となり病院搬送。命に別状なし。(TBSニュース)
- ・貨物船が衝突、転覆。8月24日深夜、和歌山県の紀伊水道で、大阪港から台湾へ航行中のリベリア籍船と日本籍の貨物船が衝突し、日本籍船が転覆。乗員5人のうち2人が行方不明。(MBSニュース)
- ・荷台から落ちた鉄材の下敷きで死亡。8月24日午後、兵庫県播磨町の金属加工工場で、大型トラックの荷台で作業中の60代男性作業員がバランスを崩して転落、積んでいた鉄材が男性の上に落下し、男性が死亡。(神戸新聞)
- ・サイロ内のコンベヤー清掃中に転落、死亡。8月23日午後、群馬県下野市の施設内で、空のサイロ内のコンベヤー清掃作業中に、50代男性作業員が約5m下に転落して死亡。(上毛新聞)
- ・給食用エレベーターに首を挟まれ死亡。8月21日午後、東京都江戸川区の夏休み中の小学校で、給食搬送用エレベーターの点検作業中に、40代男性作業員がエレベーターと壁の間に首を挟まれて死亡。(東京新聞)
- ・ゴミ焼却場で足場から転落死。8月18日午前、神奈川県川崎市のゴミ焼却場の補修工事現場で、3階部分に資材を運び込む作業中の50代男性作業員が、高さ約13mの足場から転落して死亡。(京都新聞)
- ・治山工事の準備中に斜面滑落し重傷。8月17日午後、群馬県神流町の山林で、治山工事の準備中だった20代男性作業員が急斜面を約15m滑落し、背骨を折る重傷。(上毛新聞)
- ・屋根のふき替え作業中に転落、死亡。8月17日午前、神奈川県横浜市で、2階建住宅の屋根瓦のふき替え作業をしていた建設業者の40代男性が転落して死亡。(神奈川新聞)
- ・ダンボール工場で火災、男性1人死亡。8月16日午前、埼玉県川越市のダンボール製造工場の倉庫で、倉庫内の運搬車付近から出火し火災。同社取引先の50代男性1人が死亡。(読売新聞)
- ・ベルトコンベヤーに手を挟まれ指を骨折。8月12日午前、群馬県館林市のゴミ処理施設で、施設の保守点検作業をしていた40代男性作業員が、ベルトコンベヤーに左手を挟まれて指3本を骨折。(上毛新聞)
- ・造船所で船が横転、油流出。8月9日午前、宮城県気仙沼市の造船所で、修理のため作業ドックへ移動中の巻き網漁船(全長約40m)が栈橋でバランスを崩して横転し船から重油が流出。船員2人が病院搬送。(共同通信)
- ・消防車と壁に挟まれて死亡。8月9日午前、東京都江東区のヘリポート敷地内で、朝の点検作業を終えた警備会社所有の消防車を格納庫に誘導していた60代男性警備員が、消防車と格納庫の壁に挟まれて死亡。(産経新聞)
- ・地下駐車場でCO中毒、12人搬送。8月8日未明、北海道札幌市で、駅直結の商業施設の地下駐車場で改修作業中、発電機の不完全燃焼による一酸化炭素中毒で男性作業員12人が病院に搬送。(共同通信)
- ・落下した鉄製かごの下敷きで死亡。8月7日午前、栃木県上三川町の自動車部品製造会社の敷地内で、70代女性パート従業員が鉄製のかごを積んだ台車を移動中、落下したかごの下敷きになり死亡。(産経新聞)
- ・破砕機に巻き込まれて作業員死亡。8月5日未明、埼玉県本庄市のリサイクル工場で、30代男性作業員が破砕機(全長約4m)に詰まった廃プラスチックの塊を押し込もうとして下半身を巻き込まれ死亡。(埼玉新聞)
- ・クレーン車が倒れて1人重体、他2人ケガ。8月4日午前、島根県隠岐の島町の漁港で、作業中のクレーン車が倒れて70代男性作業員が胸の骨を折る重傷、他に2人がケガ。(山陰中央新報)
- ・ゴミ搬送中、フォークリフトに挟まれ死亡。8月3日夜、埼玉県日高市のセメント工場で、炉の改修で使用した資材の梱包用ゴミをフォークリフトで搬送していた50代男性作業員が、運転席とマストの間に上半身を挟まれ死亡。(埼玉新聞)
- ・荷下ろし中に転落し重傷。8月3日午前、群馬県榛東村の陸上自衛隊駐屯地内で、中型貨物自動車の荷台で資材の荷下ろし作業をしていた70代男性作業員が1.6mの高さから転落して重傷。(上毛新聞)
- ・ブロック塀が倒れ作業員が下敷き。8月2日午後、東京都港区の2階建住宅の工事現場で、敷地内を整備していた20代男性作業員が、倒れてきたブロック塀(高さ2m、幅8m)の下敷きになり意識不明、のちに死亡。(テレ朝ニュース)
- ・増水した川に流され死亡。8月1日午後、神奈川県川崎市の川の護岸工事現場で、川底から重機を引き上げる作業中の30代男性作業員が、大雨警報で避難しようとしたところ増水した川に流され、約5km下流で死亡確認。(読売新聞)
- ・地下道工事で約28m落下し死亡。7月31日午後、東京都港区の地下道工事現場で、地下1階に組んでいた作業用の足場を解体していた30代男性作業員が、下階につながる開口部から約28m下に落下して死亡。(産経新聞)
- ・ショベルカーが横転、操縦者が死亡。7月28日午後、新潟県阿賀町の山中で、復旧治山工事で山ののり面の土留め作業をしていたショベルカーが横転、操縦していた70代男性作業員が頭を打って死亡。(新潟日報)
- ・建設作業中に熱中症で死亡。7月27日午後、兵庫県三木市の住宅建設現場で、基礎作りに携わっていた50代男性作業員が、作業中に熱中症で死亡。(神戸新聞)